

われら熟年 フェーズ2

(1999 ~ 2004)

男性ボランティア会議設立10周年記念誌



平成16年6月

男性ボランティア会議 (MVA)

表紙イラスト：

「ささえあい」のイラスト作成でお世話になった上野いつ子さんに、
今回もご協力いただきました。

会の名称は厳めしいが、地域との交流のなかで新しい「ふれあい」を
目指す、私たちの気持ちをよく表していただきました。

ありがとうございます。



目次 -

■ はじめに	
設立10周年におもう	前代表 和泉弥須雄 1
これからの男性ボランティア会議	代表 鈴木 幸夫 2
・活動マップ 3
■ 会員のことば	
・会員近影 4
MVA10年のあゆみ	田中貞一郎..... 5
人生の達人たちと	嶋田 佳剛..... 6
総合的な学習の時間	鈴木 幸夫..... 7
知的障がい者のガイドヘルプ	板東 正條..... 8
ボランティアと巡り合い	笠原 俊一..... 10
いま思うこと	片岡 将..... 11
夢の10年	田中 三郎..... 12
わたしの「ニュータウン物語」	長瀬 敏雄..... 13
ボランティア1年生	大久保光三..... 14
熟すべし老ゆるべからず	大手 章吾..... 15
男ボラと私	福島 正良..... 16
「ブラインドゴルフ・パートナー」デビュー	沢井 邦男..... 17
これからも健康である限り、続けて・・・	平口 修..... 18
健康第一	西村 吉朗..... 19
私の続いている活動の場	寺澤 重..... 20
新たな決意	涌井 富治..... 21
創立10周年に寄せて	富本 秀俊..... 22
男性ボランティア会議との10年	和泉弥須雄..... 23
若輩者の男ボラ雑感記	丸山 卓朗..... 24

■ 最近5年間の活動状況	25
車いす、アイマスクなど福祉擬似体験学習	
小・中学校	26
大学・企業	28
コミセンなど地域	29
昔あそびなどの世代間交流	
小学校	30
地域	31
介助支援	
高齢者介護施設	32
障害者施設イベント	33
パソコン勉強会	34
自主研修その他	35
■ 資料	
・ 年表	36
・ 会員往来	43
■ あとがき	44
口絵写真・カット	
車いす体験学習感想	10
車いす体験後の会食	19
車いす体験後の反省会	6
コミセン車いす体験学習	16
昔遊び イラスト	18,20
昔遊びの感想	21
永山フェスティバル	9

はじめに

男性ボランティア会議設立 10 周年におもう

前代表 和泉 弥須雄

(1994 年 4 月 ~ 2004 年 4 月)

試行錯誤のうちに、何時の間にか 10 年が経過しました。

「男性だけの、男性でもできる、そして男性にしか出来ない、ボランティア活動により、障がい者、高齢者がともに安心して住める福祉社会の構築に寄与する」を信条に設立された当団体も、「継続は力なり。」を信じ会員全員が地道な努力と協調により可能な限り広い分野で活動してまいりました。

いまこの 10 年を振り返り、感慨無量なものがあります。自画自賛になりますが、多摩市におけるボランティア活動において特異な存在となり、その活動と実績はひろく認識され、また高く評価されたものと確信しております。

しかし、その反面反省すべき点も無かったとは言えません。急速に変わり行く社会の情勢に対応するボランティア活動に対する課題等も多々あります。こうしたことを考慮に入れ、新しい活動に努力していきたいと思ひます。

最後に、今日の男性ボランティア会議が、会員の皆さんの真摯な努力と研鑽によるものであることに心から感謝申し上げるとともに、11 年目となる今年を新しい契機として、更なる活躍を期待致したいと思ひます。

これからの男性ボランティア会議 「シニアは第二の人生の現役」

代表 鈴木 幸夫

男性ボランティア会議は10年前に立ち上げた先輩達と、それ以降、定年退職等で会社人間から地域人間に変わった人が、男性ボランティア会議に関心を持って入会した人達によって構成されています。会員は会のグループ活動に参加・交流するほか、自分の特性を活かしてそれぞれ多様なボランティア等の個人活動に取り組んでおります。

いま私たちは、地域のボランティア活動等に積極的に関わることによって、たくさんのいろいろな人と出会い、ふれ合い、活動の中から自分の喜びを得て、会社人間時代と異なる、もう一人の自分を発見して、みんなが生き生きとしております。

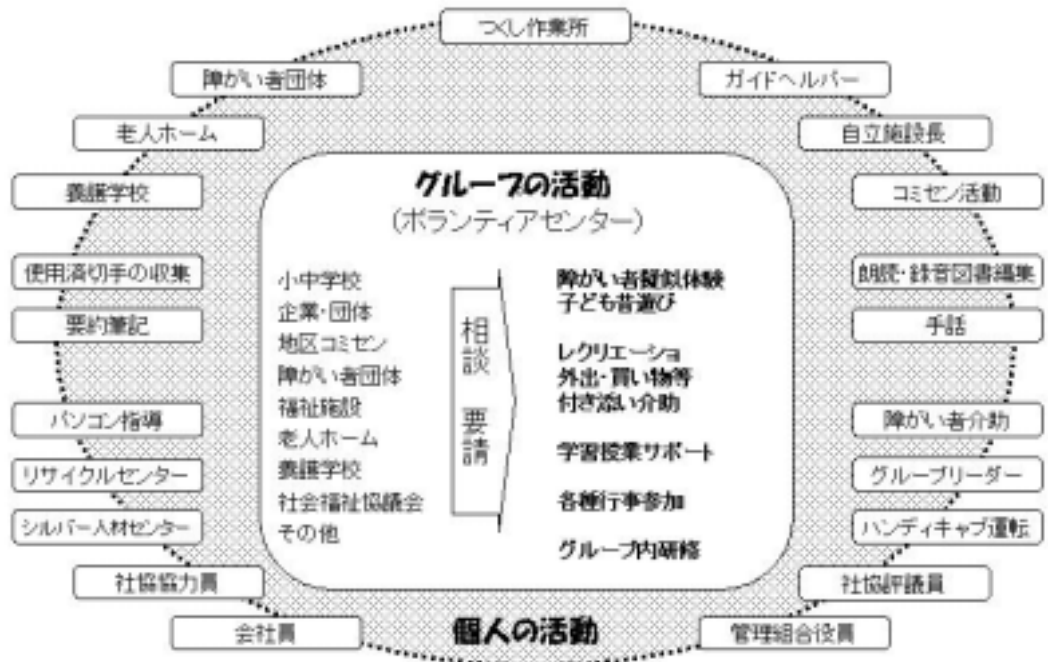
男性ボランティア会議のグループ活動は現在、小中学校の「総合的な学習の時間」における学・社協働の福祉教育に深くかかわる、障がい者擬似体験学習と、シニアの体験を活かした「昔遊び」の活動が中心ですが、このほか、社会福祉協議会の行事参加、地域コミュニティへの協力、養護学校、老人施設等の介助支援ボランティア等、多彩に行っています。

男性ボランティア会議が10年経ったこれからは、会員の豊かな年輪、知識、経験を更に活かした新しい活動の展開が求められます。また、現在の活動であっても活動の範囲、対象を広げる等の工夫と他のグループ・団体等との連携を強くして、ボランティア活動の目的を高度に発揮する時期にきていると思います。

私たちはこれからも地域に関心を持ち、常に自己研鑽して「シニアは第二の人生の現役」と思い、元気よくボランティア活動を続けることが、地域のまちづくりにつながり、自身の生甲斐となって、心身ともに健康な地域の良き「おじいちゃん」になるとおもいます。

活動マップ

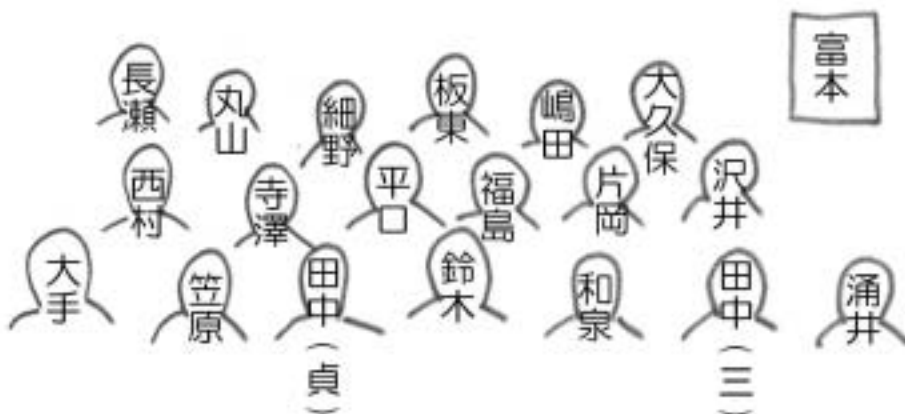
新たなふれあいを求めて グループ・個人の活動状況



現在の会員の多岐にわたっている活動を、図に表現してみました。それぞれが、個人として参加しているものを、外側の円にならべています。それらのスキル・経験をもとにグループとして活動しているのが、内側の四角の右側にあげたものです。これらは、主にボランティアセンターを窓口にして、左側の団体・組織から相談・要請を受け、活動を実施しています。

会員のことば

2004年5月14日 撮影
於 多摩ボランティアセンター永山分室



10年のあゆみを振り返る

田中 貞一郎

創立10周年記念誌刊行に当たり、これまでの行事、業績を顧みて今日までのかわりようは、我々のボランティア活動に対する心のよりどころの変遷であると思い、後の為に記すことにします。

当時は、地域社会における男性のネットワークもなく、何か役に立ちたいと言う術もなかったのが現状でした。

即ち、平成6年設立の男性ボランティア会議(略称MVA)は、当初は内なる自己啓発に重きを置き、MVAサロン多摩の開催であり、MVA-LETTERを積極的に企画、発行に、PRにと参加したものです。当時企画担当の佐藤福寿氏が主体となって立ち上げたのですが、今にして思えば、良くやったものと感心すらいたします。これらは開設当初のボランティアの理念に裏付けされたものです。

その後は、各地域のコミセンにて、実践的な体験指導に移り、主として車いすによる指導をおこなってゆきました。

阪神大震災の発生は復興に一層ボランティア活動が喧伝された影響もあり、さらに小中学校の総合学習の一環として、体験指導、介助などは併せて社会勉強の実践にもなり今日に至っています。

顧みて、何とかこの会を「地域における男性によるボランティア活動を」との初心を忘れることなく、試行錯誤はあったものの、行動がわれわれの背中を押して、ここに10周年をむかえられたことを忘れてはならない。

これからの5年後15周年にはボランティアの多様化とともに新境地の開拓に成長を期待し、攔筆します。

人生の達人たちとともに

嶋田 佳剛

私がこの会に入って1年と少しになる。私が参加しているいくつかのグループの中でも、この会は凄いなと思うことが幾つかある。これほど個性豊かな人々（結構うるさい人もいて）の集まりでありながら、仲良く10年も続いており、しかも着実に成果を挙げていること自体が凄いが、私より年長の方々、とくに80歳を超える、もしくは80歳近い幾人かの人たちが、会創立当時から中心になって、溢れんばかりのパワーと情熱をもって澁刺と活動に携わっているのは驚きに値する。

こうした人生の達人たちの姿を見ていると、うん、私もまだまだやれるぞという気持ちに満ち満ちてくるのだ。達人たちと過ごす活動後の団欒のひととき（もとよりアルコールが入っての）が、これまた楽しい。こうした活動や語り合いの場を通じて、達人たちの貴重な体験や、ノウハウを受け継ぎながら、シニアの私たちなればこそ出来るボランティアのあり方を学びとっていきたい。

2000.11.11 南豊ヶ丘小学校



終了後の反省会

「総合的な学習の時間」

わたしたちの体験学習ボランティアがきている

鈴木 幸夫

男性ボランティア会議がグループ活動として、市内小中学校の障がい者擬似体験の出前学習に関わったのは 6 年前、また時々であったが小学校のグループを対象とした「子ども昔遊び」を始めたのもこの頃です。10 周年のいま、私たちのボランティア活動が確実に地域につながり、広がっています。

・ある中学校「障がい者擬似体験学習」男子生徒の感想文に次のような一文がありました。「僕は学校からの帰り道、おとしよりも重い荷物をさげて坂道を歩いているので、短い距離でしたが持ってあげました。」他人を思いやる心、ボランティア精神につながった私たちの役割を確認しました。

・ある小学校 3 年生が地域の人とふれあって学ぶ「ふれあいタイム」のプログラムに「子ども昔遊び」が取り入れられ、私たちも遊ぶ種目を増やし、また女子のお手玉遊び等は他のボランティアグループとの連携により、生徒たちと共にふれあいタイムを楽しみました。また最近、ある団体から「子ども昔遊び」の協力要請があり、私たちの活動が地域に広がっていく存在を確認しました。

上記のような、私たちの小中学校「総合的な学習の時間」等におけるシニアボランティア活動が、地域の教育力に欠かせない存在であることを認識し、これからも子どもたちとのふれあいを大切にして、次世代につながるボランティアを続けていきたいと思えます。

知的障がい者のガイドヘルプサービスについて

板東 正條

現在、私は、「男性ボランティア会議」の一員として、会の活動としての小中学校の生徒への車椅子体験学習の指導や、「白楽荘」「聖の郷」などの高齢者移動介護といったボランティア活動を行う一方、知的障がい者のガイドヘルプサービスに関する仕事も行っています。

ガイドヘルプといえば、一般的には、視覚障がい者や身体障がい者の付き添い介助が普通で、知的障がい者のガイドヘルプサービスについては、近年認可された事情もあって、まだ余りよく知られていないと思われます。

知的障がい者といっても、軽度の人には、一人で外出は可能ですが、中度重度の人には、単独での外出は不可能です。そういう人のために市の援助によるガイドヘルプサービス制度が導入された訳ですが、それを実施できる事業者は、従来は、都の指定業者か、市から委託された業者に限られていました。それが昨年4月に「支援費制度」が導入されて、一定の基準をクリアーして申請すれば、どこの事業者も認定されることになりました。「支援費制度」とは、障がいがある人が、障がいのない人と同じように生活出来ることをめざし、障がい者自らがサービスを選択して、事業者と契約してサービスを利用する制度です。

私の仕事は、利用者が、いつどこへ行きたいという要望に対して、適切にヘルパーを手配するというコーディネーターの役割、時には、自らヘルパーも行います。利用者は、市役所や病院に行きたい、あるいは、映画、演劇、コンサート、ハイキング、ショッピングなど余暇活動に参加したい時に、この「支援費制度」を利用することが出来ます。知的障がい者の外出は、まだ多くが親とか身内の人に頼っていて、なかなか第三者に依頼しようとならない傾向があります。これでは親も大変だし、本人もいつまでも自立できません。できるだけ多くの人にこの制度を利用するようにPRしている状況です。

この仕事をしていると、時として、利用者が急に体調を崩して、外出日直前にキャンセルして、ヘルパーに迷惑をかけたたり、逆に、ヘルパーが都合が悪くなり、その代役を探すのに奔走したり、ヘルパーの介助の方法が気に入らないというクレームを受けたり、いろいろと苦労があります。

しかし、利用者に「今日の外出はとても楽しかった。ヘルパーさんにも、とても良くしてもらいました」と言われるとこの上なく嬉しくなります。何はともあれ、利用者に充分満足のいくサービスを提供することが任務であり、私の生きがいでもあると思っています。こうした精神は、「男ボラ」で培われたボランティア精神が基本となっているものと信じて、今後もこの活動を続けていきたいと思っています。



2001.7.20 永山フェスティバル



ボランティアと巡り合い

笠原 俊一

通勤の路上、毎日同じ時刻、同じ場所にてすれ違うある中年の男性障がい者と、何時の日からかお互いに挨拶を交わす様になった。

歩行の困難なこの男性障がい者に何時も元気に力強く通り過ぎて行く姿に、障がい者とは思えない生きることの努力の尊さを感じ得たのもこの時であった。

その後、職を離れ、住居近くの「つくし作業所」でボランティアを始める様になり、日程によりこの男性障がい者と共に作業の手伝いをする事により、ボランティアとは何かを少しずつ教えられ、身につけて行く様になった。

機会を得て、男性ボランティア会議に入会して、より広い範囲から種々のボランティアに参加、約5年を迎えようとする経験からやっと生活に解け込み、無理をしない行動をすることに生き甲斐を感じるのである。

1999.11.5 東愛宕中学校

車イス体験^学習
感想文

乗下いいんひのりかと思ていれたらと!

乗てみたすこ怖れ、た。足がたて、自分
で押してよめ、下下。

階段の代りにリフトがある家なとま理代
聞し話とま、そんなおかげでたとか思、てい
けいし、たしと重くた大変なと感じました。

たから、車いすの人専用のバスなとも、と聞
道に利用して費用も無料がからない安全な物
だ、たかさんおめい、いと思いました。

1年A組 番氏名 _____

車イス体験^学習
感想文

ぼくは車イス体験で「車イスは不便だ
な」と知りました。車イスに乗ると歩
の道は楽だとい、段差のあるところは
すごく怖かったです。車イスを押すとき
最初は重いかないと思いましたが
あまり重くはないかたです。車イスに
はいろんたしかけもありました。段差を
のぼるときにかんたんのぼれるしかけかおは
し。けこうたのしく車イスのこ
をよく知りました。

1年B組 番氏名 _____

いま、思うこと

片岡 将

5周年の記念誌に「生き方ルネッサンス」ということで、男ボラに加わったことを述べさせてもらったが、あらためて7年にわたる自分自身の活動状況を省みると、ただ年数ばかりが経って内心忸怩たる思いがしている。

事情で住所も変わり、多摩市の男ボラということでは「市外協力メンバー」になってしまったが、いままでの新しい出会いと経験は本当に貴重なものだった。会員諸氏や関係者各位に感謝したい。

ところで、ボランティア活動の一端に関わる一方、この5年のうちに自分もとうとう高齢者の「仲間入り」の年齢となったことから言わせてもらえば、障害を持った人も高齢者も、単に施設というだけでなく、「まち」の中で社会人として生活したり、活動出来たりするために支援することが大事だと思うのだが、来年の介護保険の見直しに加えて、昨年、措置委託制度から支援費制度に変わったばかりの障害者援助も、厳しい経済・財政状況を反映してか、ここでさらに見直され、仄聞するところによると両方の統合改変作業が進んでいるようだ。

ボランティアへの期待がますます高まる中で、ホームヘルプサービスやグループホームなど自立指向への生活支援が軽視されないよう国や自治体に望みたいと思う。

夢の10年

田中 三郎

車椅子との協調生活に入って23年、福祉の仕事に携わって16年が経ちました。その間、地域の方々の支援により、いろいろな活動をする事ができました。男性ボランティア会議に参加して10年を迎えた今、自らが体験・経験して来たことのノウハウを次代の人達へ伝えて行けたらと思います。

障害者としてとかく受身になりがちな生活を切り開くためにも、いろいろな場所へ出かけて多くの出会いを作ることができました。少しでも福祉に対する理解を深めて欲しいという思いで始めた「小・中学校での体験学習」「地域のコミュニケーションセンターでの勉強会」。車椅子の操作や介助の仕方の指導などの活動も力と時間の許す限り、続けていきたいと思っています。多くの方々との交わりは、ふと街の中で子供たちに声をかけられたり、「車椅子を押しませんか」という一言が、私にとって小さな喜びとなっています。

私たちの生活には、予期せざる天災や人災、更には交通事故などの不測の事態により、車椅子生活を余儀なくされる方々が増えています。この方々が自立した生活をされるには、大変なエネルギーと精神的な支援や温かい手助けが必要になります。

今まで私が助けて頂いたことを、今度は私自らの経験でアドバイスし、障害者の持つ肉体的、精神的な悩みを支援、解決することができればと思います。より多くの障害者個人の問題を解決するための活動の輪が広がれば、私たちの生活も更に素晴らしいものとなっていくのではないのでしょうか。

街全体が優しさに包まれているのを肌で感じながら、「でも、あたりまえではなく感謝を忘れずにいなくては・・・」。

また新しい出会いが楽しみです。

わたしの「ニュータウン物語」

長瀬 敏雄

多摩での生活はすでに 33 年が過ぎた。しかし、私の「ニュータウン物語」は始まったばかり。これまで私にとってここは休息の場ではあったが活動の場ではなかった。3 年前、定年退職を目前にひかえ、まずは地域でなにか仕事をと、和田の人材センターに行くが、どうもしっくりこない。公民館で紹介されて唐木田の福祉センターにいき、ボランティアセンターの存在を知った。ボランティア団体リストと NPO 団体リストのなかから、わたしが選んだのが、多摩手話サークルと多摩サロン大学。男性ボランティア会議は、興味はあったが名称をみて引いてしまった。でも手話サークルで F さんから勧められ、入会してみると名前からうける雰囲気とは大違い。いまでは私にとってなくてはならない存在となった。会社では年寄り扱いされていたが、ここではまだ新米の若造。周囲におだてられ、はりきって市内を動き回っている毎日ではある。会社を退職するとき、大見得をきった。「これまで 35 年間、ひたすら会社人間として過ごしてきたが、これからは社会人間になる。できれば障がい者福祉関係で地域のお役に立ちたい。」と。

だんぼらに入っているいろいろな方と知り合い、少しずつだが、この約束が反古になっていないのが、非常にうれしい。こう書くと、なにか「がんばってる」という感じがするが決してそうではない。いつも気の向いたとき、好きなことをしているだけ。

「ちょっと疲れたな」と感じる時、わたしの耳元に「がんばらなくていいよ」という女性の声が聞こえてくることがある。古いノートを整理していて、その理由がわかった。10 年ほど前の電車掲示コラム。ちょっと長いが後半を引用しよう。「生きていくのって、結構大変だ。でも頑張らなくていいよって、お山のてっぺんで大将は思う。ジンセイ、頑張らなくていい。だからエールは、ファイトでもガッツでもなくて、ドンマイ大丈夫。(杉浦日向子)」。仕事にシャカリキになっていたころ、ノートに書き写していた言葉が脳裏に残っていたのだ。でも還暦を過ぎリサイクル人生が、いま始まった。これからは自分自身の言葉で、その時々のおいをホームページに書き留めていきたい。それが「わたしの綴るニュータウン物語」となる。(HN:tonogusa)

ボランティア1年生

大久保 光三

多摩ニュータウンに住んで約18年。家には寝に帰るだけの生活で地域との交わりや仲間は0(ゼロ)に近かった。何とか地域の仲間を作り地域活動に参加したいと思い、「多摩サロン大学」なる男性だけの会を見つけ多摩市の「バリアマップ」を作るために市内を歩き障害者とも交流を持ち、少しは地域社会に役に立つ活動をしているかなと思っていたのがサラリーマン現役時代でした。

定年になりすべて自由な時間だよと言われても特に特技や趣味を持たない私はどう生活すればいいのか途方にくれました。そんな私を仲間が紹介してくれたのが「男性ボランティア会議」です。私は初めて聖の郷で高齢者の車椅子を押す手伝いや、小中学校でのアイマスク体験の手伝いを経験しボランティア1年生としてスタートしました。

「男性ボランティア会議」のメンバーは70歳台、80歳台の方も多くそのボランティア精神が旺盛に活動していることに感動しました。この経験により新宿駅で目の不自由な人を電車で誘導することができました。「喜ばれ喜びを知る」今私はボランティア活動を生きがいとして生活しています。

最近は大王子の知的障害者の「かたくりの会」で畑の草とりや軽作業をやり少しでも社会に役立つ生活を目指しています。

ボランティア1年生としてスタートした年が男性ボランティア会議10周年となり、私にとって忘れることの出来ない年になりました。

これからも少しでもお役に立てるようにいたします。

熟すべし老ゆるべからず

大手 章吾

早いものだ。男性ボランティア会議（以下男ボラ）が、呱呱の声をあげてから十年が経った。当時男ボラを主宰した人達は、80歳を超えた。志半ばで死去した人、脱会した人、定例会議で口角泡をとばし、激論を交わし席を立ったという輩もいたが、皆んなそれぞれの生き方があった。迷った時期もあった。それでも男ボラをなんとか支えてくれた源泉はなんだったのか。老人？の一徹かそれとも永年無意識の中で、はぐくまれた自省自戒の制御能力のなせる業か。

新藤兼人という世界最高齢の映画監督がいる。92歳だが身も心も、かくしゃくとした人物だ。映画監督として演出家として、そして夜は依頼された原稿書き、早朝は散歩を欠かさない等々多忙な毎日だ。この監督にも夜しのびよるすさまじい孤独感があるそうだが、ひとときの救いは一冊の本だという。「老人読書日記」（岩波新書）を読むと、いつもそばに本を重ねて置いて「別れた恋人に会うような気持ち」で本と対峙するという読書欲だ。どこまでも人生を貪欲に生きる姿に人間の根源的な生きざまをみる、そら恐ろしい人物だと思うが、一方多くの点で生き方を学んだ。

まだまだへこたれるなというシグナルをもらったようなものだ。確かに体力の衰えはあっても夢、希望、信念、アイデアそしてシャイで頑固な生き方では、若い人には「負けてなるか」そんな自負をもって、男ボラはただひたすらに我が道を走っている。時にはボランティアのハルウララと呼ばれたって気にはしない。「熟すべし老ゆるべからず」である。

男ボラと私

福島 正良

早いもので私も入会して7年になります。初めは何も分らずに先輩について行くだけ。「ボランティア」ってなんなの、そんな思いでした。

定例会の後の・・・、つくし作業所の外出介護（水浴訓練）多摩養護学校の見学等、私にとって忘れることのない経験でした。

社協のハンディキャブの協力員そして運営委員さらに福祉まつりの実行委員長、何も分らないうちにボランティアの勉強を、そして今では「アートひまわり」に、すべて男ボラあつての事です。

私は定年後に、こんなに充実した人生を送れるとは思ってもおりませんでした。毎日が忙しく男ボラの活動に参加できず申し訳なく思っております。

これからは少しずつ参加できるよう考えております。

2003.10.12 貝取こぶし館



「ブラインドゴルフ・パートナー」デビュー

沢井 邦男

私の男ボラでの活動は、自身の多岐に亘る趣味に費やす時間確保を最優先して、日程に余裕がある時だけボランティア活動に参加しています。

昨年たまたま自分の趣味(ゴルフ)に関連したボランティア活動との出会いがあり「ブラインドゴルフ・パートナー」として、ボランティア・デビューし活動をしています。

「ブラインドゴルフ」とは、ブラインド(視覚障害)プレーヤーと目の代わりとなるゴルフパートナーの二人三脚で、プレーヤーにゴルフを楽しんで頂くスポーツです。パートナーの基本的役割はゴルフコースでのプレー誘導とプレー上の必要な情報、例えば残り距離、ハザードと障害物の存在、ボールのライ、グリーン芝目の傾斜・ライン等のプレーヤーが必要とする援助を的確に提供する事です。

これらは私自身の永年のゴルフ経験・知識・攻略判断力を活かします。

「ブラインドゴルフ・パートナー」としてのボランティア活動は、自身が抱えていた大きな命題「自分にあったボランティアは何なのか」に一步近づいたようだ。

去年は都内在住のブラインド会員とミニコース・本コースラウンドの同伴が主でしたが、本年は多摩市在住のブラインド会員と同伴の機会もありました。同伴したプレーヤーが、ナイスショットやロングパットが決まった時の笑顔を楽しみに、今後も活動を続けたいと思っています。

これからも健康である限り、続けて・・・

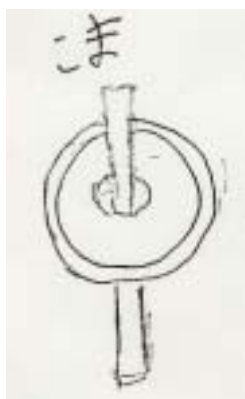
平口 修

男性ボランティア会議に入会して6年、会の皆さんと様々な活動に参加。市内の各小中学校を回り、車椅子介助について擬似体験の指導、元気な生徒達から若いエネルギーを貰って何となく若返ったような気分になったり、特養ホームの方々、外出の介助。初詣、花見、ハイキング等々。思い出話など聞きながら車椅子を押す。「短い時間でもいい、外に出て表の空気を吸って景色を見る。ただそれだけで、気分転換が出来るんです。」と嬉しそうに話す、その顔を見ると、こちらも心が和む。

障がい者の日帰り社会体験に、一泊旅行に、度々付き添った。多少の神経疲れはあるけれど、身の回りの世話をする事には聊かも苦にはならない。役目が終わり、帰って行くみんなの後姿を見送りながら、何事もなく良かった・・・と初めてホッとする。

これからもわが身が健康である限り、介助を必要とする人々の為、会の皆さんと共にボランティア活動を続けていきたいと考えている。

2004.3.5 多摩第3小学校 ふれあいタイム感想文集より



健康第一

西村 吉朗

人生健康第一と口では誰でも簡単に言う、けれど人生これが又大変難しい事である。若い時は仕事やレジャー等で毎日身体を動かして居ても何も気にしないで過ごして来て居る。

怪我、病気等で、入院すると皆んなこんなはずでは、とってしまう。人間の身体は良く出来ている。ダメでも又直り、働き、遊びの繰り返し。結構人生を楽しんで来ている。

持病で 10 数年、その間もう駄目かと思った事が幾度か有った。(人生は天命かな。) その度、回りの人々にお世話になり、人は一人では生きて行けぬ存在で、お互いに助け合う心が必要と思う人生観を感じました。若い者には、負けないと思う気持ちだが人間も何かと同じで使用して来ると見えない処が自然と傷んで来るものである。

健康維持で人に迷惑をかけず、自己管理を大切に健康第一で、MVA15 ~ 20 周年に向けて頑張ってくださいますので宜しくお願いします。

MVA 10 周年お目出度う！！



2003.11.19 多摩第3小学校
福祉体験後の会食

私の続いている活動の場

寺澤 重

私は、男性ボランティア団体があることを、ボランティアセンターで知り、和泉(前)代表を紹介され始めて定例会に出席し、活動の様子を聞くにつけ日頃興味を持っている団体であることを、私自身が感じ入会しました。月例会に出席しており、経験豊かな先輩方々の活動を聞き、月数回の活動では、当時私には体力に余裕がありましたので、活動の場を広げようと思っていたところ、つくし作業所を紹介されました。

現在週2回(月、木)の活動をしています。最初は大変戸惑い、ここで働いている人々とどう接していけばよいか非常に悩みました。しかし、時間が経つことによって、相互に信頼関係が深まり、共同作業が楽しく出来るようになりました。

男性ボランティアが誕生して今年10年を迎えるとの事ですが、私と同じ団体に活動している平口さんと二人の、つくし作業所での活動は、ことし5年を迎えました。また、小中学校での体験学習は、私たち高齢者にとっては、若い活力を与えてくれる場で、大変楽しい活動の一つと思います。これからも全会員が健康に留意し、この活動がすこしでも長く続くよう願っております。

2004.3.5 多摩第3小学校ふれあいタイム感想文集より



新たな決意

涌井 富治

男性ボランティア会議は、男性の特技を生かして地域の社会福祉に貢献する活動を続けています。高齢者擬似体験を出前しています。

わが国の平均寿命は男性が77.2歳、女性が83歳と世界でも最高水準に達しています。かつての人生50年といわれた時代から今や人生80年の時代が実現し、長くなった高齢期においても健康で充実した生活を営むことが一人一人の国民にとっての切実な課題となっております。

これからの社会を国民が、長生きして良かったと、実感できる社会とするためには人生の後半においても私たちは介護の問題を家族だけのものにせず、社会の仕組みをより柔軟なものに変えていく必要があります。高齢社会を目の当たりにしている現在、まずは多摩地区の方々に内容を広く知っていただきたいとの思いです。

男性ボランティア会議設立10周年にあたり、すべての世代の社会を目指す決意を新たにしました。

2004.3.5 多摩第3小学校ふれあいタイム感想文集より



男性ボランティア会議 創立10周年に寄せて

富本 秀俊

男性ボランティア会議創立10周年おめでとうございます。私が男性ボランティア会議に入会したのは2003年4月で、ボランティア歴1年の初心者です。これからの高齢化社会に向かって、企業社会だけでなく地域社会への参画の必要性に気づき、少しでも早い段階から自分なりにできることをやろうと自覚したのが入会の動機です。

ボランティア活動の大半が女性である中で、男性ボランティア会議は、とてもユニークで貴重な存在であると思う。会員としては現役リタイヤー組の年配者が多いが、活動は元気ハツラツ。しかも多才・経験豊富で教えていただくことが多い。この会がこんなに長く続いたのは、相互間のコミュニケーションの良さ（活動後の一杯）にあると思う。

今後の課題として、地域ニーズの多様性に応えていくにはボランティア精神だけでは困難になりつつあると思う。この10年をひとつの節目として、さらに男性ボランティア会議が発展していくためには会員確保とNPO法人化への検討も必要な時期に来ているのではないかと思う。私自身、住環境のバリアフリー化への経験に昨年4月から始めた社会福祉士の勉強をあわせて、さらに地域福祉活動に参画していきたいと考えています。

最後に、10年にわたる先輩諸氏の活動に敬意を表します。

男性ボランティア会議との10年

和泉 弥須雄

早いものでもう5年が過ぎました。こんな書き出しで5周年誌に投稿した覚えがあります。あれからさらに5年。男性の能力の生かせる、そして男性だけのボランティア団体が出来ないものかと設立され、比較的ボランティア経験があることと発起人の一人であったこともあり、代表に推され、志を同じくする仲間と可能な限り広い分野でボランティア活動に参加してきました。素晴らしい技術と識見をもつ男性の集団を纏めていくには、私なりの苦労もありましたが、こうした団体が私の求めたボランティア団体であったのだと、反面誇りにも思い嬉しくも思いました。

現役のころは一国一城の主であったであろう人々が、目的を一つにして真摯にボランティア活動その他に参加する。そして活動のあとでの反省会？で青年にかえり、おおいに悲憤慷慨する。私などこれが楽しみで活動に参加した点も無きにしもあらずです。こうした仲間とともに活動した私の10年は本当に充実した10年でした。

私がボランティア活動にかかわったのは、ほぼ20年近く前になりますが知的障がい者・児を、それも個人の参加で、団体としての参加は男性ボランティア会議が初めてでした。でもこれで違ったボランティア活動を経験することが出来ました。前半の10年が無駄という訳ではありませんが、仲間との参加がより強く印象に残ります。思い起こすといろいろあって感無量のものがあります。

永い活動の間みんなよく文句も言わずに私を立ててくれました。本当に感謝しています。これも私へのボランティアだったのでしょうか。

いま、10年を契機に代表を引きますが、今後も一人の会員として活動に参加していくつもりです。そしてDANDYな仲間と洒落た会話で、美味しい酒を元気に飲みつづけていきたいと思えます。

若輩者の男ボラ雑感記

丸山 卓朗

私 62 歳、男ボラでは鼻タレ小僧である。百戦錬磨のウワバミおじさまが、キラ星のごとく居並ぶ、スーパーボランティア軍団「男性ボランティア会議」。そのキャリア、その実績、そして一人当りの年齢の高さ？を誇り、多摩市ボランティア界に君臨して 10 年。たいしたもんだ、と云うべきか。差別、蔑視はご法度の世において団体名に堂々と女人禁制らしき「男性会議」を名乗り、あたかも正統派体育会系の体をなしているようにも見える。しかし、その実態はどうだろうか。

五体どこかに不都合あるが
求め乞われればイヤとは云えぬ
涼しい顔で東奔西走
至る所で問題解決
感謝感激拍手の嵐
お礼の言葉にハニカム笑顔
どんなもんだい。まだやれる
孫やヒ孫に自慢して
相好くずすは アアまさに
やさしいジイサマ軍団なり

男ボラ集団楽しきことは
ことあるごとの集会在が
終わればソレ行け飲み処
お TENT さまは高けれど
楽しい仲間のおしゃべり会
アト一本アト一本と尻上がり
二日酔いは間違いナシ

楽しきことをもう一つ
年に一度の温泉旅行

終わりにひとつコバナシもどき。

A「会議室を申し込みたいのですが」
B「ハイ 用紙に記入願います」
A「ハイ 書きました」
B「エーと、申込み者の欄にはお名前か
団体名をお願いします」
A「この通りです」

はやり
流行のリゾートわき目もふらず
昔ながらの定番温泉
溪流沿いの古びた旅館
宿のユカタに身をつつみ
こちらは最新カラオケマシン
懐メロ歌って夜はふける

検討事項に名称変更
変えてはどうかの声あるが
「男性」しかり「会議」もユニーク
アテンションは、バツのゲン
絶対変えてはイケません

最近チョイト気になることは
平均年齢少しは下げたい
鼻タレ小僧もいるにはいるが
もっと集まれ若者来たれ
ご意見番とムキムキマン
一緒に花を咲かそうよ
新選組は今日も行く
男ボラ軍団明日も行く

B「イエ、目的が会議であることはわか
りますが、団体名をキチンと書いて頂
きたいのですが・・・」
A「ウーム、誤解を解くのは遠～いな
ー!？」

最近5年間の活動状況

設立後5年間の、内外への会の存在アピール、理論固めをベースに、最近5年間は、その実践・行動を主体として活動してきました。

車いす、アイマスクなど福祉擬似体験学習

学校（小学校、中学校）のみならず、大学・企業、コミセンなどの地域を対象にした広範囲なものになってきました。

昔あそびなど世代間の交流

小学校が中心ですが、地域のイベント（福祉まつり、永山フェスティバル、わんぱく相撲）にも関わり、他グループとのコラボレーションも始まっています。

介助支援

高齢者介護施設、障がい者支援施設、養護学校などのほか、障がい者スポーツ大会などのイベント、各種行事の際の介助支援を行なっています。

パソコン勉強会

一般市民を対象に、1999年から11回行なってきました。2002,3年度は公民館よりパソコンを借用して実技中心勉強会になりましたが、2004年度より市からの借用ができなくなり、現在は中断しています。

自主研修および介助用テキスト作成

救急講習会実施や介助実技学習などほか、テキスト「ささえあい」ダイジェスト版作成を行ないました。また、外部のボランティア講習会、フォーラムなどへの出席も積極的に行なっています。

広報活動

2002.4.25にホームページを開設し、会の活動をPRしています。また、タウン誌などから取材をうけ、紹介記事も掲載されました。

協力事業

多摩市バリアフリー福祉マップ作成にも実地検証等協力しました。

車いす、アイマスクなど福祉擬似体験学習

- ・ 学校（小学校、中学校）



2000.11.11
南豊ヶ丘小学校

2003.1.23
連光寺小学校



2003.06.09
瓜生小学校

2002.6.25
瓜生小学校





2003.2.4
鶴牧中学校

2002.2.21
諏訪中学校



2002.9.24
和田中学校

2003.9.26
東愛宕中学校



体験コース事前点検中

車いす、アイマスクなど福祉疑似体験学習
・大学・企業など



2003.5.9
恵泉女学園大学



1999.6.30 多摩総合精神福祉センター



2003.1.30 京王電鉄聖蹟桜ヶ丘駅



2004.1.24
大和証券研修センター

- 車いす、アイマスクなど福祉擬似体験学習
- ・ コミセンなど地域を対象

2003.9.30 ひとときの和(瓜生小)



2003.7.3 民生委員福祉部会



2003.10.18 ひとときの和(東愛宕小)



1999.9.10
トムハウス

昔あそびなど世代を超えた交流をはかる

・小学校



2001.6.13
東落合小学校
(紙ヒコキ)



2000.10.7
西落合小学校
(竹トンボ)

2003.12.12
多摩第3小学校
(和たこ)



・地域のイベント（永山フェスティバル、わんぱく相撲、）



2002.5.5
ボランティアセンター永山分室
竹トンボ準備

2002.7.20
永山公民館



竹とんぼ



2003.5.18
東永山複合施設体育館



介助支援
・ 高齢者介護施設

2003.1.15
高幡不動尊



2003.4.3
乞田川ふれあい公園

2002.6.6
大谷戸公園



・ 障がい者のイベント



2003.1.26
多摩市総合福祉センター

・ 障がい者支援、介護施設



2003.8.2
つくし作業所



2002.8.30
しながわ水族館

自主研修および介助用テキスト作成



2003.5.13 多摩消防署救急講習

ささえあいダイジェスト版



会員相互の親睦



2003.7.22 箱根湯本温泉



2003.4.11 ボラセン永山分室

広報活動

2003.1.10 アサヒ・タウンズ 掲載



協力事業

- ・バリアフリーマップ作成 (2004.3.24)



年表 (10年間の活動記録)

- H05.09.28 第1回男性ボランティアの集い 開催
06.01.21 第3回男性ボランティアの集い 開催
会の名称を「男性ボランティア会議」と決定する
04.08 「男性ボランティア会議」設立総会 開催
04.21 第1回「男性ボランティア・サロン多摩」 開催
05.21～07.16 多摩ボランティアセンター主催シニアボランティアスクール参加
11.19 第4回多摩市ボランティア交流会 参加
H07.05.27
～07.15 多摩ボランティアセンター主催 ボランティア入門講座 受講
08.15 夏休み体験学習 車いす体験 指導
11.11 第5回多摩市ボランティア交流会 参加
分科会にて「男性のボランティア活動」について紹介
12.03 社協主催「クリスマス・もちつき大会」 参加
H08.03.23 障がい者スポーツ大会 介助参加
05.18 ゆう桜ヶ丘 車いす体験指導
09.14 トム・ハウス 車いす体験指導
11.10 こぶし館福祉まつり 車いす体験指導
H09.06.21 第9回「男性ボランティア・サロン多摩」 開催
06.29 南多摩ボランティア研究集会 参加
09.20 馬引沢ボランティアクラブ 車いす体験指導
H10.03.07 ひじり館福祉フォーラム 参加
04.03 多摩スプリング・コンサート 参加
04.11 高齢者介護問題を考える会主催講演会 協賛参加
06.05 多摩大学付属中学校 車いす体験指導
06.28 南多摩ボランティア研究集会 参加
07.19 多摩バレースクール主催チャリティバレー 障がい者介助
08.08 永山フェスティバル 参加
09.19 第10回「男性ボランティア・サロン多摩」 開催
10.14 第8回多摩市ボランティア交流会 参加
11.17 大松台小学校 車いす体験指導
12.15 南豊ヶ丘小学校 紙飛行機飛翔大会 指導
12.24 福祉関係体験学習用テキスト「ささえあい」作成作業開始
H11.02.27 「ささえあい」完成
03.10 南豊ヶ丘小学校 車いす体験指導
03.13 障がい者ふれあいスポーツ大会 介助参加

(以上は、「5周年記念誌」より 主要活動を再掲)

- H11.06.19 5周年記念誌「われら熟年」完成
- 06.30 都立多摩総合精神保健福祉センター 車いす体験指導
- 07.05 西落合小学校 紙ヒコーキ作成飛翔大会
- 07.25 永山フェスティバル 車いす・高齢者擬似体験指導
- 08.01 平成11年度夏季ボランティア体験学習 鶴巻西公園
- 08.06 創立5周年記念パーティ サンピア多摩
- 09.11 トム・ハウス 車いす・高齢者擬似体験指導
- 10.16 福祉まつり パソコンゲーム・バイオリズム
- 11.05 東愛宕中学校 車いす体験指導
- 11.16 パソコン勉強会・Word初級 ベルブ永山
- 11.27 多摩市ボランティア交流会(第1～第5分科会)
第1分科会「始めの一步」 パネラー 平口 修さん
- 12.04 ふれあいコンサート 参加 公民館
- 12.25 ときめきイブニングパーティー '99 参加
-
- H12.01.11 延寿ホーム 高幡不動初詣 介助
- 01.15～30 第2回パソコン勉強会
- 02.01 大松台小学校 車いす・高齢者擬似体験指導・アイマスク指導
- 02.07 第3回パソコン勉強会
- 02.13 貝取こぶし館 車いす・高齢者擬似体験指導・アイマスク指導
- 03.09 つくし作業所 中伊豆研修旅行 介助
- 03.11 障害者ふれあいスポーツ大会参加
- 03.11 永山分室移転記念イベント 車いす・擬似体験 参加
- 03.13 つくし作業所 知的障害者理解講座 参加
- 03.14 延寿ホーム 薬師池 観梅介助
- 04.16 多摩スプリングコンサート 障害者介助
- 05.17～22 第4回パソコン勉強会
- 05.26
～13.02.23 つくし作業所 社会体験介助 10回
- 06.10 ヴィータコミュニネ 映画鑑賞 障害者介助
- 06.19～27 第5回パソコン勉強会
- 07.22～23 永山分室 夏休み体験学習
- 09.09 トム・ハウス 車いす体験指導
- 09.14 多摩養護学校高等部 社会見学介助
- 10.02～04 多摩養護学校高等部 移動教室介助
- 10.07 西落合小学校 体験学習
- 10.28 ボランティアセンター 団体活動紹介
- 10.31 西落合小学校 道徳授業地区講座 参加

- H12.11.11 南豊ヶ丘小学校 体験学習
- 11.27 西落合小学校 カミヒコーキ大会
- 11.28 東愛宕中学校 体験学習
- 11.30 南鶴牧小学校 アイマスク体験
- 12.02～03 福祉まつり 団体活動紹介
- 12.08 西落合小学校 昔あそび体験
- 12.18～20 第6回パソコン勉強会
-
- H13.01.22 シニア・ボランティア活動推進会議 聴講
- 01.29 大松台小学校 体験学習
- 02.06 多摩第3小学校 体験学習
- 02.09 豊ヶ丘中学校 体験学習
- 03.08 延寿ホーム 小金井公園観梅 介助
- 03.09～10 ボラセン永山分室1周年記念事業 車いすミニ体験
- 03.10 障害者ふれあいスポーツ大会 介助参加
- 03.11 貝取こぶし館 体験指導講習
- 03.17 ひじり館福祉フォーラム 団体活動紹介パネラー 佐藤拓郎さん
- 05.06 レーナ・マリアコンサート 介助 パルテノン多摩
- 05.25 つくし作業所 給料学習 多摩動物公園
- 05.30 ボラセン永山分室 利用者懇談会
- 06.13 東落合小学校 紙ヒコーキ 飛翔体験
- 06.19 ボラセン永山分室 「やってみよう 初めてのボランティア」
- 06.22 つくし作業所 給料学習 横浜
- 06.29 東京ボランティアセンター13年度教育フォーラム 活動紹介 和泉弥須雄さん
- 07.15 福祉マップ作成協力 9/27まで 4回
- 07.20～22 永山フェスティバル 参加
- 07.27 つくし作業所 給料学習 永山、新百合が丘
- 07.29 ボラセン永山分室 夏休みボランティア体験学習
- 08.24 つくし作業所 給料学習 防災会館
- 09.20 つくし作業所 いも掘り
- 09.27 多摩養護学校 社会見学 介助
- 10.02 白楽荘 多摩動物公園 外出介助
- 10.10 多摩グリーン・ロータリークラブ講演会 聴講
- 10.19 社協諏訪支部 永山周辺車いす体験
- 10.20 聖の郷 老人保健施設 介助
- 10.21 多障協 NPO法人設立式典
- 10.25 つくし作業所 給料学習 水上、谷川
- 10.27 多摩市ボランティア交流会

H13.10.30	東愛宕中学校 車いす・アイマスク体験
11.05	大松台小学校 車いす・アイマスク体験
11.09～14	第7回パソコン勉強会 入門 4回
11.16～29	第7回パソコン勉強会 ワード初級 5回
11.17	アートひまわり 社会見学介助 箱根
11.28	多摩第3小学校 車いす・アイマスク体験
11.30	つくし作業所 給料学習 府中サントリー見学介助
12.08	社協主催 福祉まつり
12.12	多摩第3小学校 昔あそび体験
12.15	パルテノン多摩 バリアフリーからユニバーサルデザイン 聴講
H14.01.09	白楽荘 高幡不動初詣 介助
01.15～16	延寿ホーム 引越手伝い
01.20	公民館利用者懇談会
01.25	つくし作業所 給料学習 六都科学館
02.16	西落合小学校 竹トンボ・紙ヒコーキ作り
02.21	諏訪中学校 車いす・アイマスク体験
02.22	つくし作業所 給料学習 梅が丘
02.26	東愛宕中学校 車いす・アイマスク体験
03.04～06	聖の郷 府中郷土の森観梅 介助
03.09	障害者ふれあいスポーツ 車いすバスケット 介助
03.12	西落合小学校 竹とんぼ作り体験
03.18	白楽荘 懇談会
03.22	つくし作業所 給料学習 梅が丘
03.24	福祉マップ完成報告会
03.25～30	第8回パソコン勉強会 入門 4回
04.04～07	聖の郷 外出介助 3回
05.13	多摩市障がい者自立支援センター「のーま」設立式典
05.17,20	多摩養護学校 外出介助 2回
05.29	つくし作業所 給料学習 山梨方面
06.05～07	聖の郷 大谷戸公園 外出介助 3回
06.11	永山小学校 体験学習
06.25～27	瓜生小学校 体験学習
07.03～04	研修旅行 箱根湯本
07.17	つくし作業所 給料学習 恵泉女学園大コンサート介助
07.20～21	永山フェスティバル 参加
07.28	多障協 第4回「であい広場」参加
08.10	障がい者自立支援センター「のーま」 講師派遣

H14.08.30 つくし作業所 給料学習 しながわ水族館
 09.24~27 和田中学校 体験学習 2回
 09.26 多摩養護学校 外出介助
 09.29 貝取こぶし館 体験学習
 09.30 東京ガス多摩支店 体験学習
 10.03 多摩養護学校 外出介助
 10.03 聖の郷 大谷戸公園 外出介助
 10.04 多摩第3小学校 体験学習
 10.10~11 つくし作業所 旅行介助 軽井沢
 10.13~14 聖の郷 外出介助 府中郷土の森公園
 10.16 大松台小学校 「ひとときの和」体験学習
 10.22 諏訪中学校 体験学習
 10.23~29 白楽荘 外出介助 3回
 10.27 多摩市ボランティア交流会 参加
 11.15~20 第9回パソコン勉強会 インターネットで年賀状を作る 4回
 11.16~17 「高齢者いきいきまつり」 落合複合施設
 11.23 「ときめきコンサート」 参加介助
 11.26 松ヶ谷中学校 体験学習
 11.28 多摩養護学校 外出介助
 11.29 つくし作業所 外出介助 フジテレビ
 12.14~15 福祉まつり 参加

 H15.01.08~09 聖の郷 初詣介助 2回
 01.09~22 白楽荘 初詣介助 3回
 01.23 連光寺小学校 体験学習
 01.24 京王電鉄 体験学習 事前調査
 01.25 同 指導方法打ち合わせ
 01.27 東愛宕中学校 体験学習
 01.30~31 京王電鉄聖蹟桜ヶ丘駅 社員体験学習
 02.04 鶴牧中学校 体験学習
 02.20 つくし作業所 外出介助 啓光学園
 02.27 多摩養護学校 外出介助 府中、パルテノン
 02.28 つくし作業所 外出介助 町田セリガヤ会館
 03.01 アートひまわり 外出介助 山梨
 03.03~05 聖の郷 外出介助 府中郷土の森
 03.06 多摩第2小学校 体験学習
 03.08 障がい者ふれあいスポーツ大会 介助 総合体育館
 04.03~04 聖の郷 外出介助 2回

H15.04.22 多摩養護学校 外出介助 桜ヶ丘公園
 04.30 第10回パソコン勉強会 ホームページ入門 5/28まで 3回
 05.09 恵泉女学園大 車椅子体験学習
 05.13 多摩消防署 普通救命講習 受講
 05.15～16 多摩養護学校 校内介助 2回
 05.18 多摩青年会議所主催 わんぱく相撲多摩場所 竹とんぼ遊びで協力
 05.23 つくし作業所 外出介助 神代植物公園
 05.29 島田療育園 運動会 出場者介助
 06.02～03 聖の郷 外出介助 桜ヶ丘公園 2回
 06.09 瓜生小学校 車いす体験学習
 06.20～27 聖の郷 外出介助 2回
 07.03 民生委員障がい者部会 車いす体験
 07.12 大和証券唐木田研修所 車いす体験
 07.13 聖の郷 夏まつり介助
 07.18 つくし作業所 社会体験
 07.19～20 永山フェスティバル 竹とんぼ作り、パイオリズム
 07.22 社協 夏休みボランティア体験学習 写真記録担当
 07.22～23 研修親睦旅行 箱根湯本温泉
 08.02 つくし作業所 夕涼み会 サポート
 08.03 第11回パソコン勉強会 パワーポイント入門
 08.06～08 つくし作業所 南野デーサービス介助
 08.20 ボラセン登録団体研修会(たましろの郷見学,福生社協との会合)
 08.22 つくし作業所 プール介助
 08.31 和田中学校 車いす体験
 09.02 つくし作業所 鱒つり介助
 09.10 つくし作業所 旅行介助
 09.12 こぶし館 車いす体験
 09.18 東愛宕小学校 「ひとときの和」車いす体験
 09.24 多摩第3小学校 昔あそび
 09.26 東愛宕中学校 車いす体験学習
 09.26 多摩第3小学校 昔あそび
 09.30 瓜生小学校 「ひとときの和」車いす体験
 10.01～02 聖の郷 ハイキング介助
 11.10～12 多摩養護学校 校内介助 3回
 11.16 多摩養護学校 公開講座 聴講
 11.19 多摩第3小学校 車いす体験
 11.21 多摩第3小学校 昔あそび
 11.22 社協 福祉まつり準備

H15.11.23~24	福祉まつり パソコン占い 2回
11.26~27	つくし作業所 高尾山社会体験介助
12.19	多摩第3小学校 昔あそび
H16.01.07~10	聖の郷 初詣介助 3回
01.07~28	白楽荘 初詣介助 4回
01.10	アサヒタウンズ紙掲載「パワー溢れる70代男ボラ」
01.23	多摩第3小学校 昔あそび
01.24	大和證券唐木田研修所 車いす体験
01.25	多摩協新年の集い 参加
01.27	連光寺小学校 車いす体験
02.13	つくし作業所 外出介助
02.20	多摩第3小学校 昔あそび
02.21	白楽荘 ボランティア感謝の集い 参加
02.24	10周年記念行事打ち合わせ
02.26	多摩養護学校 遠足介助 府中ボーリング
03.02~03	聖の郷 府中郷土の森観梅 介助
03.02	南豊ヶ丘小学校 車いす体験
03.05	多摩第3小学校 昔あそび 成果発表会
03.13	障がい者ふれあいスポーツ大会 運営手伝い、参加者介助
04.01~03	聖の郷 お花見付き添い 乞田ふれあい公園
04.22	多摩養護学校 中学部、高等部遠足介助 大谷戸公園ほか
04.23	第11回定期総会 ボラセン永山分室
05.20	永山3-1ふれあいサロン 車いす体験指導
05.22	多摩青年会議所主催わんぱく相撲多摩場所ゲームコーナー(昔あそび)協力
06.05	愛のふれあいコンサート in 多摩 参加者介助 パルテノン多摩
06.18	男ボラ10周年記念パーティー ウェルサンピア多摩

会員往来

2004年5月現在

氏名(敬称略)	在籍期間	住所
和泉 弥須雄	H06.04 ~	多摩市貝取 5-2-7-204
大手 章吾	H06.04 ~	多摩市聖ヶ丘 3-58-3
田中 三郎	H06.04 ~	多摩市桜ヶ丘 3-13-10
田中 貞一郎	H06.04 ~	多摩市一ノ宮 2-19-28-102
涌井 富治	H09.04 ~	多摩市和田 3-1-9-310
片岡 将	H09.05 ~	八王子市別所 1-15-26-101
鈴木 幸夫	H09.05 ~	多摩市関戸 2-35-8-106
西村 吉朗	H10.04 ~	多摩市永山 4-3-5-508
福島 正良	H10.04 ~	多摩市諏訪 2-2-12-503
笠原 俊一	H11.06 ~	多摩市永山 2-14-3-101
平口 修	H11.06 ~	多摩市貝取 5-2-6-505
細野 三治	H11.06 ~	多摩市永山 3-3-6-102
寺澤 重	H11.08 ~	多摩市貝取 1-40-4-305
板東 正條	H12.09 ~	多摩市貝取 3-2-4-503
長瀬 敏雄	H14.01 ~	多摩市永山 5-30-5-2
沢井 邦男	H14.04 ~	多摩市豊ヶ丘 5-1-10-303
丸山 卓朗	H14.05 ~	多摩市鶴牧 3-7-3-202
大久保 光三	H14.12 ~	八王子市下柚木 3-2-4-306
嶋田 佳剛	H15.02 ~	多摩市豊ヶ丘 2-15-5-204
富本 秀俊	H15.03 ~	多摩市愛宕 4-41-5-201
一瀬 誠治	H06 ~ H11	退会
佐藤 福寿	H06 ~ H11	退会
岩森 靖和	H06 ~ H12	退会
佐藤 拓郎	H11 ~ H14	退会
美和 旺三郎	H11 ~ H14	退会
橘 義	H13 ~ H14	退会
渡辺 弘	H09 ~ H16	退会
鴻池 敬和	H12 ~ H16	退会
元山 隆	H14 ~ H16	退会

あとがき

多くの人達に支えられて私共男性ボランティア会議は 10 周年を迎え、そしてここにささやかながら 10 周年を記念する小冊子を発行する運びになりました。会設立当時から、一貫してご協力、ご支援いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。

今回の 10 周年記念誌「われら熟年フェーズ 2」発行に際しましては、かつて 5 年前に発行した「われら熟年」につながる最近 5 年間の活動を中心に再編集し、改めて 10 年という男性ボランティア会議の節目を回顧すると同時に会員皆んなの多岐にわたる仕事への思いを凝縮させ上梓したものであります。

これからも多くの友人たちと手をたずさえながら創立の志を忘れることなくどこまでも、「男ボラ流」の仕事に情熱をもってがんばっていきたいと思っております。どうぞ今後とも暖かい手で背中を押してください。

最後にこの小冊子が、男性ボランティア会議の活動にご理解を賜り相互の友情の絆を確かめるための一助となれば会員一同望外の喜びであります。

(編集委員代表 大手章吾)

男性ボランティア会議は、シニアボランティア活動に意欲のある男性を、多く求めています。ぜひ、会の門を叩いて下さい。貴方は、その時から立派なボランティアです。

お待ちしております。

問い合わせ先： 多摩ボランティアセンター(TEL 042-373-6611)

ホームページ： <http://www52.tok2.com/home/danbora/>

男性ボランティア会議設立 10 周年記念誌

われら熟年フェーズ 2

2004 年 6 月発行

発行 男性ボランティア会議

(多摩ボランティアセンター登録団体)

発行責任者 鈴木幸夫

編集委員

和泉弥須雄 大手章吾 田中貞一郎 鈴木幸夫

笠原俊一 長瀬敏雄 大久保光三 嶋田佳剛